

おいしい
手土産

文・絵＝長友啓典
text & illustrations : Keisuke Nagatomo



【北海道】

『道南平塚食品』の 文志郎の鹿角納豆

「文志郎の鹿角納豆」



「道南平塚食品」の「鹿角納豆」の工場

ようやく秋めいてきたところで恐縮ですが、夏の思い出話をひとつ。

「夏」といえば北海道、ゴルフ、夏競馬、温泉、湖……を連想する。昨年は入院生活を送りながら、ベッドの上であそこに行きたい、これをした、あれを食べたい、いろいろな妄想していた。今年も念願叶って蒸し暑い都会から梅雨を避けての脱出であった。誰しも考えることは同じのようだ。何年振りかの北海道はほどよく混雑していた。それでも聞くところによれば、通年よりは客数が下回ったそうである。

今年の北海道行きは、僕が東京にある専門学校の顧問をしている関係で、その北海道校に表敬訪問

をするという建前の「ゴルフ&温泉ツアー」という計画だった。申し訳ない。

さて、旅先にくわしい人がいるといないとは、その旅の成否は大きく異なるが、今回は北海道校の先生方による親切で大盛会のツアーであった。そして、数ある北海道土産のなかから厳選された地元特有のものを紹介いただいた。鬼がお出迎えの「登別温泉」へ向かう途中、そのお店はあった。『豆の文志郎』という納豆屋さんである。なにがきっかけでそんな有名になったかといえ、2008年に開催された「北海道洞爺湖サミット」である。

サミット会場には世界のVIP



「文志郎の鹿角納豆」の工場

が集まり、3日間におよぶ会議が開かれた。その会場「ザ・ウィンザーホテル洞爺」の朝食に『道南平塚食品』の「文志郎の鹿角納豆」が供された。「納豆文化」を世界に発信するという「志」が受け入れられたというわけだ。世界の首脳たちから絶賛をされたらしい。その後、意を強くした『道南平塚食品』が北海道のお土産、日本の、いや世界のお土産として発売しているのだそうだ。

そんなニュースを耳にすると、いともたつてもいられない。なにはともあれと、お店に直行した。

お店には「今までの常識を超えた発想とさらに上質な素材で『納豆好きの方たち』の期待に添える『すごい』納豆造りを実現しました。云々」という「文言」が貼り出されていた。そこまで聞けば、勿論、今回のお土産は「文志郎の鹿角納豆」である。おまけに購入した「黒豆納豆シュークリーム」の美味しさもなかなかのものであった。

近くにある『のぼりべつ酪農館』の「のぼりべつとろろプリン」

「文志郎の鹿角納豆」



も忘れることができない、北海道らしい美味しさである。北海道は毛ガニが旬であった。またアスパラ、ジャガイモ、チョコレートとお土産の宝庫だ。いろいろ手当たり次第に、両手いっぱい、肩にも担ぐほど購入した。が、「文志郎の鹿角納豆」がゆるぎなかった。

苫小牧のエナミゴルフクラブ、登別カントリー倶楽部、恵庭カントリー倶楽部でのゴルフ三昧は大満足であった。ナイトライフの充実ぶりもお知らせしておかなくてはならない。札幌ではお母さまと息子さんが大正時代の建物でやっている、ちよつと変わった酒場『呑み家 お茶の間』がよかった。東室蘭の居酒屋『いさり火』の魚介と毛ガニは秀逸だった。高倉健さんが登場して「いらっしやい」とあいさつしてくれそうな佇まいがたまらない。



「北海道の乳牛」



「文志郎の鹿角納豆」

ながとも・けいすけ
アート・ディレクター。1939年生まれ。日本デザインセンターを経て、1969年、黒田征太郎とデザインスタジオ「K2」を設立。アートディレクター、各種広告イベント現場のディレクター、小説の挿絵、雑誌のレイアウトなどを幅広く活躍。

お問い合わせ：道南平塚食品株式会社 ☎0143-85-2167